

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	次回会議で議論する基本計画検討シートを本日公布し、事前にお目通しいただくよう案内した。 本日のテーマは図書館（第6期総合計画120ページ・まちづくり白書159ページ）であることを確認した。 〈テーマ1：図書館〉 ・図書館新築の検討状況について →義務教育学校の構想が先行したため、4校の跡地活用も含めて図書館の位置づけを再検討する必要がある。図書館・学校・他施設との複合施設化も含め、次の計画はゼロベースでの検討が必要である。 ・デジタル図書は費用が高額なうえ、実際に近隣図書館でも利用冊数は伸びていない。新しい図書館構想の中で将来的なニーズも踏まえて検討していく。 ・図書館同士のネットワーク（相互貸借）については、すでに全道レベルで実施しており、どの図書館が何を所蔵するかを検索のうえ取り寄せることができる。 〈テーマ2：生涯学習〉 ・（生涯学習全体）担い手の確保と活動の再活性化が根本的な課題であり、サークルも含め後継者・新会員が見えない状況が続いている。商店街や地域団体も同様であり、町全体の共通課題である。 ・情報格差について、デジタル化は待ったなしである一方で、まずデジタルを生活に取り込む第一歩として、地域アプリの普及が重要な流れであると評価した。アプリを通じてスマホ講座も開催しやすくなるのでは。 ・人と人が直接会う場・コミュニティの回転が大事であり、スマホだけで完結する社会ではコミュニティが育たない懸念がある。 ・高齢者の移動手段（免許返納後）の問題と、近くて行きやすい場所の確保が生涯学習参加の前提条件になっている。この課題は交通・都市計画とも連動している。 ・サークル活動の見える化・参加ハードルの低下について、活動の雰囲気・楽しさを短い動画で伝えることが新規参加者の獲得に有効である。地域の人々が自らSNS発信できる力を高めることも重要である。高校生など若い世代が動画制作することで、自分たちの地域発信練習にもなる。 ・マナビティセンターのバリアフリー（段差・階段）の問題が高齢者の利用障壁になっている。施設の統廃合・義務教育学校開校に伴う跡地活用も含め、生涯学習

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	拠点のあり方を再設計する必要がある。コンパクトシティの方針とも連動して検討すべきである。 〈テーマ３：青少年健全育成〉 ・スマートフォンの利用時間について、条例で制限している自治体の例を紹介し、子どもたちのデジタル利用のあり方を社会全体で考える必要がある。ただし、保護者自身のスマホ利用が長時間になっている実態もあり、家庭全体での取り組みが必要である。 ・フィルタリング（プロテクト）機能を使えばスマホの有害サイト閲覧を制限できるが、保護者が設定しないケースが多い。リテラシー教育と同時に保護者向けの啓発も必要である。 ・青少年育成活動を一生懸命支えている地域の方々（朝の見守り・声かけ運動）への感謝を述べ、地域の繋がりを守ることの重要性を改めて強調した。 ・少子化の中で地域の子どもたちを集めた場の設定・コミュニティ・スクールの再設計が必要である。活動の可視化・思いの共有が参加者を増やす鍵である。